

2018年12月13日

2018年11月 東京23区 - 0.6%の3,506円/m² ほとんどの築年帯で頭打ち～弱含みで推移

三大都市圏・主要都市別/分譲マンション賃料月別推移

首都圏11月 前月比 - 2.3%の2,781円/m² 東京23区も - 0.6%と小幅に反落

近畿圏では3月以降の下落傾向に歯止め 中部圏では3か月ぶりに小幅なマイナス

2018年11月の首都圏・分譲マンション賃料は、主に東京都での事例シェア縮小や弱含みが影響し、前月比 - 2.3%の2,781円/m²と3か月ぶりに下落した。都県別で見ると、東京都 (-0.7%、3,346円/m²) や埼玉県 (-1.6%、1,674円/m²) では下落に転じ、神奈川県 (-0.2%、2,116円/m²) に至っては前年同月比も再びマイナスとなった。一方、千葉県では市川市や柏市などで築浅事例が増加したことから、平均築年数は9月と同程度まで若返って賃料水準も +2.1%の1,596円/m²と上昇し1,600円台に迫っている。

近畿圏では大阪府での事例シェア拡大や強含みによって、前月比 +0.5%の1,814円/m²と3月以降の下落傾向に歯止めが掛かる結果となったものの、直近1年間に限ると低い水準であることに変わりはない。依然として築古事例が増加している大阪府だが、今月の賃料水準は +1.4%の2,037円/m²と大幅下落した前月からやや持ち直す動きとなった。一方、兵庫県では -1.5%の1,608円/m²と4か月ぶりに下げたが1,600円台は維持している。

中部圏では前月比 -0.3%の1,749円/m²、愛知県では -0.3%の1,789円/m²と小幅ながら3か月ぶりに下落した。ピーク時から水準を下げていくものの、底堅い動きを見せている。

※詳細なデータや分析内容についてはこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください